

土木はデートコースに最適である！異論もありましょうが、これを是として本連載をスタートします。

Doboku de Date

東京都市大学
吉川弘道 監修

多くの人々を魅了して止まない土木施設。カップル、家族連れ、女子会や土木マニアもみんなで楽しもう。本連載では、筋金入りの土木ウォッチャーにお声掛けし、現地取材レポートを画像とともに紹介します。題して Doboku de Date、キックオフ。



清洲橋：歩道を主構造の外側に張り出すことで桁高を低く見せ、吊り橋ならではの優美さを強調している。永代橋とともに国の重要文化財
 ・構造形式 / 自旋式鋼鉄製吊り橋
 ・橋長 186.3m
 ・幅員 22.0m
 ・供用 1928年3月

永代橋：清洲橋とともに、関東大震災後に架橋された「隅田川復興橋梁群」の中核的存在
 アーチリブが作り出す雄大な構造美が魅力

- ・構造形式 / 中央径間：スチールアーチ橋、両側：鋼桁橋
- ・橋長 184.7m
- ・幅員 25.0m
- ・供用 1926年12月



Date course #1

水面から愛でる夜のツインゲート - 隅田川ナイトクルーズ -

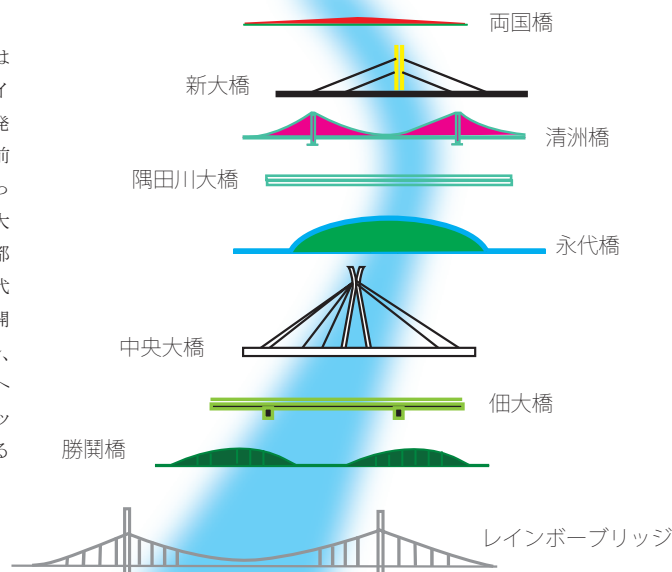
橋梁の美しさを味わい尽くすには、船に乗って水上から眺めることだ——。個人的には、そう思っている。まず、遠目からプロポジションを愛でる。陸と違って橋と私の間に視界を遮るものはない。真下に来れば、その大きさに圧倒される。橋脚の重厚さ、桁裏の構造や質感、リズムカルに並ぶリベットだっつつぶさに観賞できるのだ。

東京・隅田川は名橋の宝庫だ。なかでもイチオシは、「帝都を飾るツイン・ゲート」として2000年に第1回の土木学会推奨土木遺産に選定された永代橋と清洲橋。永代橋の上向きアーチと清洲橋の吊り材が描く下向きアーチが対になり、都市景観に華を添えている。ライトアップされた夜景を楽しむナイトクルーズも人気で、家族や友人、恋人を連れて行っても喜ばれるに違いない。

文：三上美絵、フリーライター
写真：林直樹

☆現地に行くには・・・

隅田川クルーズを航行する船会社はいくつかある。例えば東京水辺ラインの船は両国国技館の裏手にある発着場を出発。浅草方面へ廻り、蔵前橋、厩橋、駒形橋、吾妻橋をくぐって言問橋でUターン。両国橋、新大橋を超えるといよいよ清洲橋、首都高の隅田川大橋を挟んですぐに永代橋が現れる。その後は数少ない跳開橋である勝鬨橋や東京港のシンボル、レインボーブリッジを巡って両国へ戻る橋満喫コースだ。夜はライトアップが素晴らしく、昼は細部を愛でるのに最適だ。



Date course #2

東海道薩た峠：東西交通のダイナミズム

- 歌川広重が愛した眺望 -

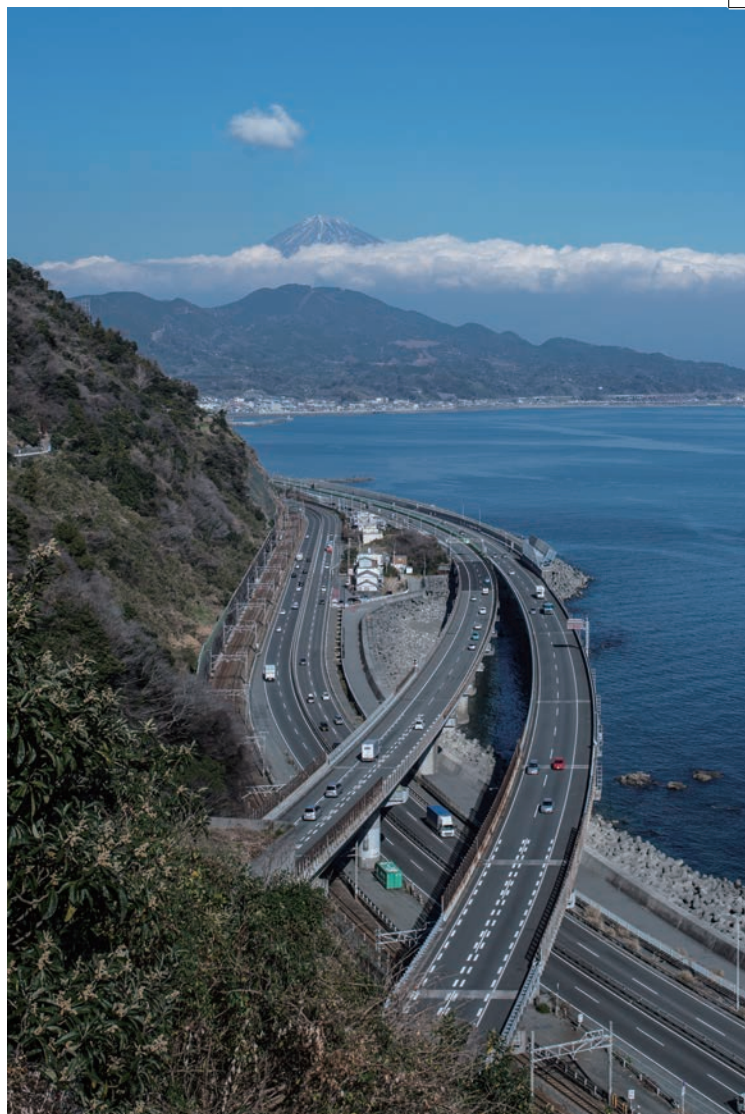
Doboku de Date の第 2 弾は、東西交通のダイナミズムを味わえる東海道薩た峠（さったとげ）を紹介したい。

静岡県静岡市にある薩た峠は、東西の大動脈が併走する交通と物流の要衝である。

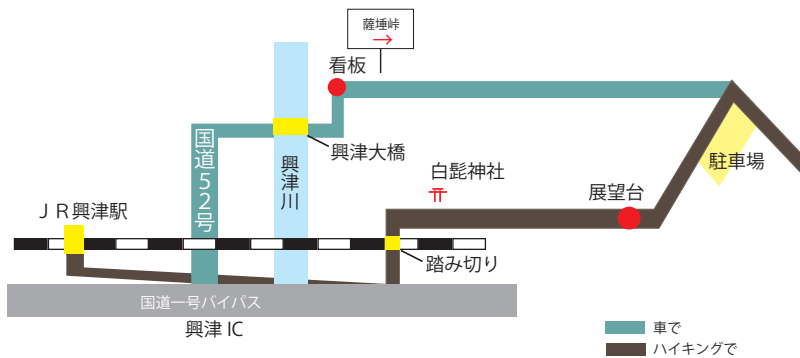
徳川幕府によって整備されたとも言われているこの要所は、東海道五十三次・由比宿と興津宿の間に位置する。駿河湾沿いの急峻な地形から東海道の難所とも伝えられているが、峠からの絶景は、かつて絵師歌川広重によって描かれた浮世絵としても馴染みが深い。

時は移り、東名高速道路、国道1号線、東海道本線が併走する交通の要衝として様変わりする。近代の交通インフラが稼働している現代にあっても、霊峰富士と海山の織りなす絶景は、連綿と続く主役の座を譲らない。峠の展望台からの眺望は、東西交通の躍動感を肌で感じることができ、昼間と夜の眺めを楽しみたい。晴れた日には富士山を仰ぎ、日が落ちると、幾重にも踊るライトビームが登場する。

文：林直樹
写真：林直樹



都立中央図書館特別文庫室所蔵 「東海道五拾三次之内」 「由井」 「薩埴嶺」



☆現地に行くには・・・

国道1号線・静岡バイパスの興津ICから20分程度の現地駐車場が便利。国道52号線を経由して、興津大橋を渡り、薩た峠の看板を見落とさないこと。駐車場から、徒歩5分にて薩た峠展望台に辿りつくことができる。

